※

昔々、じいさんとばあさんがいた。じいさんは山にいって木を切っては、それを町にもって来て売ってくらしていた。

ある日、にぎりままをもって山に行って木を切っていたが、昼になったので、にぎりままをたべようとして出したら、手からおちてころころところげだした。じいさんは、「ニギリママ、ニギリママどこまでいくであー。」といったところ、「沢のジゾウ、ジゾウ」と、いった。それで沢の地蔵さんのところにいったら、地蔵さんの前にあがっていた。それで「おおありがたい、たすかった」といい、よいところを地蔵さんにあげ、自分では悪いところをたべたら、地蔵さんが「ジジ、ジジ今夜おれどこさとまれ、いいことあるから」という。それで、「はい」と、いったら、「おれのそでのかげさかくれていれ、おれが一回ひっぱったら一番どりの、二回ひいたら二番どりの、三回ひいたら三番どりのまねをすれ」といった。

地蔵さんのかげにかくれていたら、夜なかになったら赤鬼や青鬼がでて来て、バクチをはじめたしばらくすると、地蔵さんがひいたので「コケコッコウ」と一番どりのまねをした。鬼たちは「オヤッ、一番どりだなあ」といった。またしばらくして二番どりのまねをしたところ、「オッ二番どりだ。早くもどらねえとえんまさんにしかられる」といいながらもつづけた。また地蔵さんがひいたので三番どりのまねをしたところ、「アッ、三番どりだ、はやくえがねば」といって、そのままにして帰っていった。

地蔵さんは、「この金は、全部もっていっていいから、家に帰ってたのしめ」といった。じいさんは礼をいって家に帰り、いろいろものを買った。

すると、隣りのヒコヒコばばあがきて、「いいものどこから買った」と、聞くのでわけを話してやった。

翌日、隣りのじいさんは、にぎりめしをもって山に行った。昼になったのでにぎりめしを出し、ころげるもしないのに、ごろごろころがしてやり、沢の地蔵さんのところに行き、「地蔵さん、ひろってけたか」といい、自分でいいところをくい、地蔵さんには悪いところをあげ、とまれともいわないのに地蔵さんのかげにかくれてまっていた。

夜なかになると、鬼どもがやって来てバクチをはじめた。それで地蔵さんが何もいわないのに一番どりのまねをした。つづいて二番どり、ついで三番どりのまねをしたので、鬼どもは、「これはおかしい、昨日もやはりおかしかった。よいどりでもいるでないか」といって、さがしまわったためじいさんは見つかってしまった。

「これや、ふていやつだ、昨日もわれわれの金をもっていって」と、よってたかって鬼どもにひどい目にあわされてしまったと。